ほうでえ~

周防大島町の話題

ありゃ~のう

110 周年シンポジウムを開催 生誕

りました。 地元で郷土食を研究するグループ お昼には食文化の体験会として、 の赤坂憲雄さんとの対談があり、 によりかいもちなどのお接待があ わらべ歌コンサートと、 グライターの寺尾紗穂さんによる 特別講義として、シンガーソン 午前の部では周防大島郷土大学 民俗学者

した。 地域学習の発表が行われ、 周防大島郷土大学の新山玄雄さん ネリストに、コメンテーターには 化財研究所の今石みぎわさんをパ 藤護さん、 が行われ、 と題してパネルディスカッション などを研究した成果が披露されま が故郷を撮影した写真を題材に、 人々の暮らしの様子や現在の様子 午後の部では、 続いて「宮本常一の現在地 赤坂憲雄さん、東京文 龍谷大学名誉教授の須 小中学生による 宮本

トで、 つながりをもとにした共同の営みの大切さが話し合われました。 をお迎えし、 当日は町内外から約260人が参加され、町外から参加した女性 「話を聞いて力をもらった。地元での文化活動の糧になる」と話 宮本常一の現代的な意義について討議し、宮本が描く地域の 中国新聞社論説主幹の佐田尾信作さんのコーディネー

で披露される予定です。

「天の岩戸開きの舞」

は日見、

横見の秋祭り

の舞を熱心に見入っていました。

会場には町外からも多くの人が詰めかけ、

伝

鬼などに扮するなどして笛や太鼓の拍子に合わ 直垂(相撲の行司のような装い)の衣装を着たり、 この日は大変な暑さとなりましたが、烏帽子に

伝統の舞を披露されました。

の皆さんで、

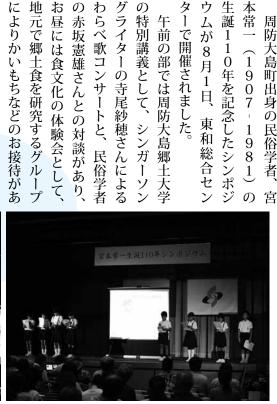
舞台は夕方5時過ぎにまでおよびました。

神舞を伝承しているのは日見岩戸神舞保存会

小学生から大人まで33名が所属。

度の本神楽の年にあたり、

朝11時から始まった



ターで開催されました。

ウムが8月1日、

周防大島町出身の民俗学者、

▲小学生の発表の様子

▲パネルディスカッションの様子

ました。

今年は

「十六の舞」すべてを舞う、

4年に1

神舞」が7月3日、

町の

無形文化財に指定されている「日見岩戸

志佐の新宮神社で奉納され

宮本常一生誕110年シンポジウム

本神楽で6時間超の舞



マックス「天の岩戸開きの舞」

日見岩戸神舞